

第1回～第3回の協議会に提出された意見

別紙1

第1回 2月5日

教委会	第二小	P T A	保護者	自治会	民委員	提案
					○	あり方委員会の南第二小統合の根拠が誤っていて統合の理由にならない。 A. 2015年文科省「適正配置の手引き」を基に統合の検討をしているが、この手引きでは、南第二小の規模は統合の検討が不要となっていることから統合の理由にならない。 B. アンケートは小規模校に関するもので統合に関するものでないために統合の理由にならない。 C. 検証シートの評価方法は南第二小の評価を下げるために偏った評価をしていて統合の理由にならない。
					○	南小は次の安全上の理由により南第二小の統合には不適切である。 A. 統合にはスクールバスが必要ですが一方通行と車両制限で使えない。 B. 自家用車両による緊急対応ができない。 C. せせらぎ前の国道168号はハザードマップの浸水区域である。 D. 学校に至る通学路が開水路の上になっていて、最近多発しているゲリラ豪雨では雨水が溢れて国道168号に投げ出されて交通事故になる。この対策は統合に関係なく緊急に実施が必要。
			○			教育／E S Dを行うユネスコスクールに加盟

第2回 3月27日

教委会	第二小	P T A	保護者	自治会	民委員	提案
		○				立地条件を生かし特色ある授業を実施
		○				特色ある授業で市内全域から児童の受入れ
		○				不登校児童の受入れ
		○				プールなどの休止施設敷地に保育園の誘致
		○				空き教室利用（保育園や公民館施設）
		○				空き教室利用（南第二小コミュニティ協議会の事務室）
		○				空き教室利用（老人が集う場所）
		○				空き教室利用（子育て総合支援センター分室）
		○				P T A，学校、地域が連携した南第二小を児童健全育成のモデル校化
		○				実践的なキャリア教育（生徒の夢の具現化、資金調達、発信）
		○				防災教育などの学校と地域が連携した学習
		○				全ての学校の施設を生徒が利用できる小規模校教育
		○				縦割り授業のたんぼぼタイムを増やす教育
		○				大谷川のホタルやたんぼぼアートなどの地域の人と一緒にした学習
		○				特定のスポーツに特化した教育

教 委 会	第 二 小	P T A	保 護 者	自 治 会	民 委 員	提 案
		○				特化した教育を通じて市内全域から児童の受入れ
		○				生徒が地域に貢献する活動を授業に取り入れ地域に発信する。
		○				運動場の芝生化
		○				赤字解消が目的であれば現職員の能力不足、能力ある人の公募
		○				南中のために南第二小の統合が出ている。中学校の校区見直しが先
		○				教職員組合の教育署名（統合反対？）で415筆が提出されている。
		○				南第二小はすぐれているので市内全域から児童の受入れ
		○				学習指導員の数学の指導など小規模校のよさがある。
		○				南中と大瀬中を小中一貫校、南第二小に教育センターにする。
		○				生駒市は子育ての街として住民を増やしてほしい。
		○				地域と協働してきた第二小を存続すべき。地域の権利である。
		○				発達障害などの受入れは小規模校ならではできる。
		○				文化祭などを通じて地域と協働すべき。
		○				SDGsを取込んだ授業をすべき
		○				文科省が取り組んでいる少人数学級のモデル校とすべき
		○				日本の教育はデンマークでは通用しない。グローバル教育を
		○				グローバルスクール探求学習、STEM教育、反転教育他を。
		○				子どもに幸せな教育を受けてほしい。
		○				南第二小を地域の人が立ち寄れる場所にできないか。
		○				複合型コミュニティ活動の拠点にできないか。
		○				南第二小を小規模実験学校法学校にできないか。
					○	立地条件を生かし他の校区の生徒の受入れ
					○	発達障害の児童の受入れ
					○	地域で協力をするので障がいのある児童を受け入れる。
					○	努力を認める教育方法を取り入れ教育の価値を高める。
					○	競わない日本の教育ではグローバルな世界では生き残れない。
					○	P T A保護者による活発な子育て活動 ・積極的なP T A役員活動 ・南第二小存続委員会の設置 ・会員による学校支援お手伝い活動 ・P T A役員O Bによる保護者会活動
					○	地域による活発な子育て活動 A. 南地区自治連合会による大運動会 B. 南地区民児協による子育て支援 ・あいさつ運動 ・全国民児協モデル事業 A. 地域の力のラウンドテーブル 障害と虐待と地域の関りのワークショップ

教 委 会	第 二 小	P T A	保 護 者	自 治 会	民 委 員	提 案
						B. 学校地域協働ボランティアへビブスの配布 C. 市民自治協議会あいさつタウン南ネットワークの子育て支援 ・くらがりとうげ親子ハイクの実施 D. 100こみを通じた子育て支援 ・令和2年度6事業採択の内2事業を実施 E. スカウト協議会によるスカウト体験支援 F. 各自治会による夏祭りなどの子育て支援活動 G. 各自治会による子供の見守り活動
					○	P T A ・ 学校 ・ 地域が生徒のために運営するコミュニティスクール ・ 令和2年度より学校運営協議会を実施 家庭教育、学校教育、地域教育を高める運営 ・ 二小学校コミュニティ協議会（7年目）による学校地域協働活動 令和3年度は22事業を実施予定
					○	校区巡りを通じた地域の認知活動
					○	人形浄瑠璃見学による地域文化の認知活動
					○	井出山スポーツプラザの複合利用（プール、体育館、グラウンド）
					○	人権文化センターによる人権教育
					○	暗がり峠棚田をまもる NPO 法人による地域遺産教育
					○	たわわ食堂とコラボした調理実習と地域交流
					○	くらがりとうげ親子ハイクを通じた地域遺産を知る活動
					○	関西メタルワーク(株)見学による環境教育
					○	(一社)無限による障がい者支援活動の周知活動
					○	縦割り生徒グループと地域が連携したオリエンテーリングの実施
					○	地域の伝統文化の体験教室（大とんど、お月見泥棒・・・）
					○	交通の利便性と空き教室を生かした小学校教育の水平展開 （他の小学校との目的別授業、合同クラブ活動・・・）
					○	少人数学級の検討
					○	将来予測生徒数の見直し（行政施策の反映、国道168号に伴う開発）
	○					キャリア教育（二小未来創造プログラム） 縦割りグループによる活動と催し：イエナプランの一環 教育と文化、技術、経済の一体教室：エドテックの一環 ICT活用による地域への情報発信：GIGAスクールの一環
	○					ICT教育の充実
	○					教職員の資質向上 授業力、ファシリテーション能力、ICT能力の向上
	○					災害拠点づくり 地域と連携した防災訓練、避難所訓練、防災教育

教委会	第二小	P T A	保護者	自治会	民委員	提案
	○					地域コミュニティづくり 持続拡大する地域学校協働活動を通じた学校運営 空き室の活用による地域連携強化（P T A教室、コミュニティ教室）

第3回 5月1日

教委会	第二小	P T A	保護者	自治会	民委員	提案
			○			再編を望ましくない理由 A. 安全性 ・通学路の安全が確保されていない。(通学路の安全検証実施) ・学童保育のお迎えの負担が大になる。 ・避難所としての南第二小は不可欠 B. 教育環境 ・小規模校のデメリット低減及びメリットの最大化 ・小中一貫教育ができない通学区域の見直しが最優先 ・小規模校のメリットを生かした教育 C. 跡地利用 公共施設管理推進計画では廃校が必要として、基本的な考え方では校舎を残すとしていて理解が得られない。まちづくりの観点から検討すべき。
			○			ユネスコスクールへ加盟
			○			こども会議の開催
			○			絵本広場の開催
			○			オンライン交流
			○			ランドセルバンク設立
			○			ユニセフマンスリーサポート
			○			プロジェクションマッピングによる地域の恩返し活動
			○			歩きたくなるハイキングコースづくり
			○			キャリア教育（例本日たこ焼き屋さん）
			○			未就学児童家庭との交流
			○			フリースクール併設
○						協働的な学び（他校や海外の学校とのICT授業）
○						個別最適な学び（不登校、病気や臨時休業時のオンライン授業）
○						イエナプランやエドテックの導入
○						オンラインによる合同学習や発表会の合同開催
○						学年の縦割り学習≒イエナプラン
○						地域参加型の学校行事
○						不登校児童対応教室の開設
○						学校図書館の地域への開放

教 委 会	第 二 小	P T A	保 護 者	自 治 会	民 委 員	提 案
○						学童保育所校舎内に設置
○						空き教室利用（保育園）
○						空き教室を利用したコミュニティ・ルーム
○						フリースクールの開設